
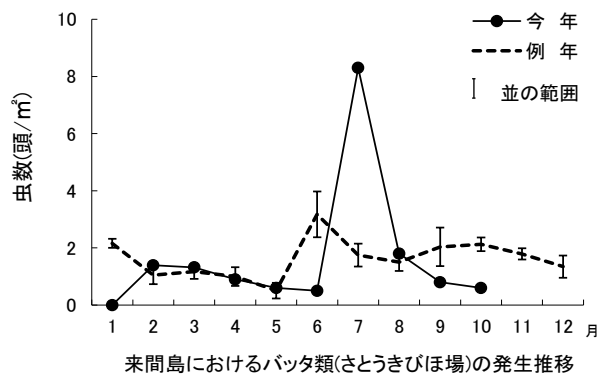


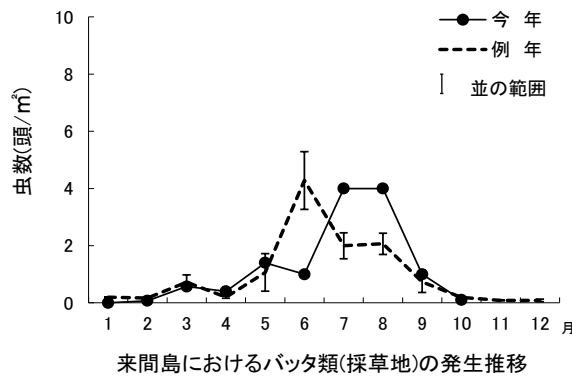
| | | | |
|-------------|--|----|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | バッタ類 | |  |
| 10月の発生量（現況） | やや少 | | |
| 11月の増減傾向 | ↓ | | |
| 増減傾向の根拠 | さとうきびほ場と採草地における成虫・幼虫数の例年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。 | | |

発生量の根拠（調査結果）

さとうきびほ場




採草地



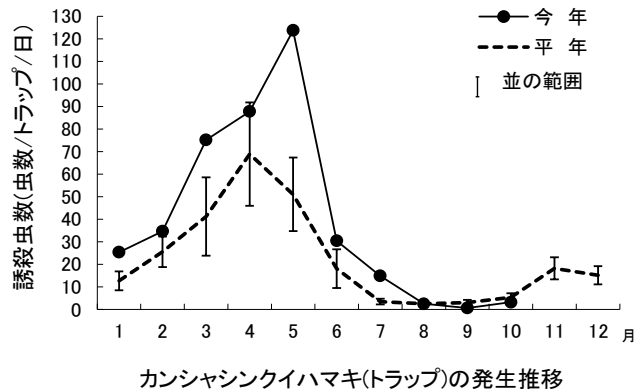
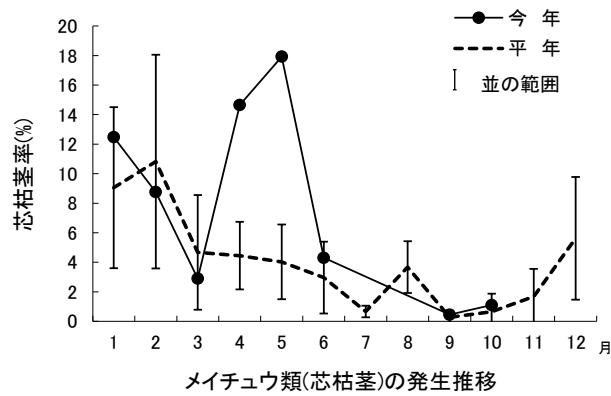
- ・ 来間島の一部地域では多発していた。（発生種：タイワンツチイナゴ）
- ・ 本調査にて成虫が多数確認された。

防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。


| | | | |
|-------------|--|----|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | ① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ) | |  |
| 10月の発生量(現況) | 並 | | |
| 11月の増減傾向 | ↗ | | |
| 増減傾向の根拠 | 芯枯茎率とトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。 | | |

発生量の根拠(調査結果)

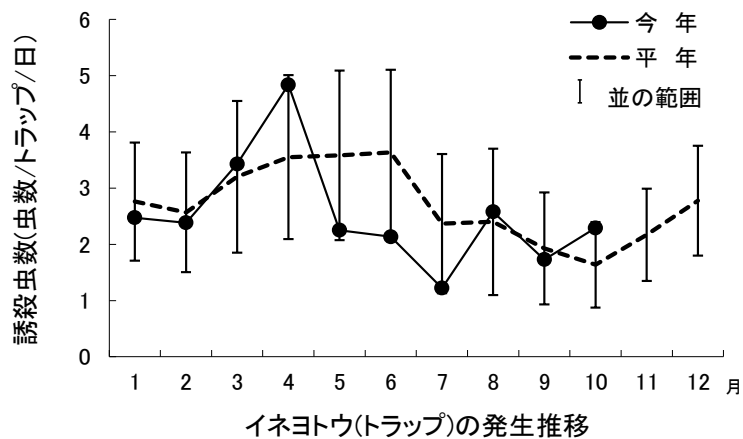
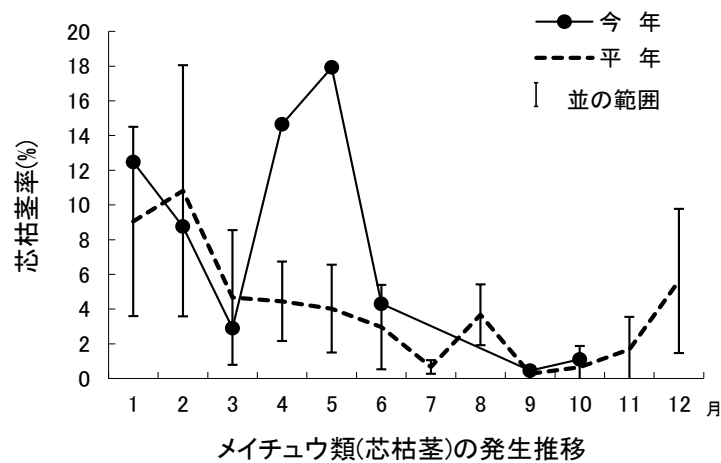


防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。


| | | | |
|-------------|--|----|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | ② メイチュウ類(イネヨトウ) | |  |
| 10月の発生量(現況) | 並 | | |
| 11月の増減傾向 | ↗ | | |
| 増減傾向の根拠 | 芯枯茎率とトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。 | | |

発生量の根拠(調査結果)

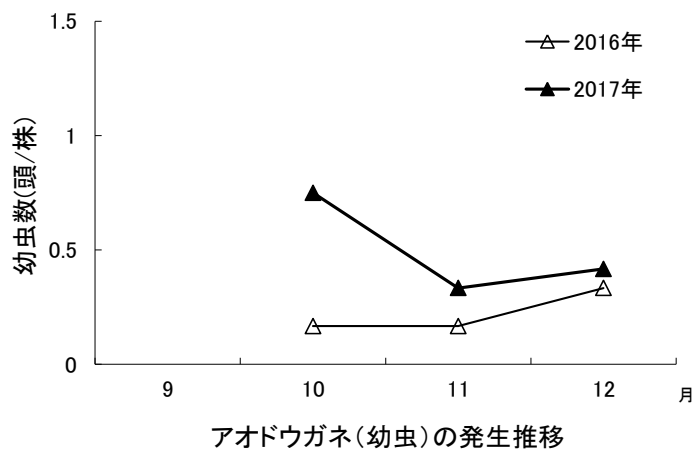
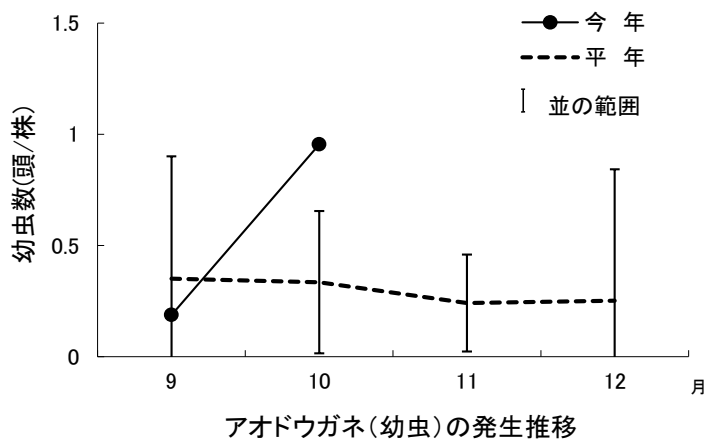


防除のポイント

- ・卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時、培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

| | | | |
|-------------|----------------------------------|----|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | アオドウガネ(幼虫) | |  |
| 10月の発生量(現況) | やや多 | | |
| 11月の増減傾向 | → | | |
| 増減傾向の根拠 | 幼虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。 | | |

発生量の根拠(調査結果)



防除のポイント

- ・若齢幼虫を防除するため、培土時に粒剤を処理する。